

海禅寺新聞 第14号

海禅寺に併設する芙蓉保育園では、毎日子どもたちのプール遊びが盛んに行われています。夏の照りつける日差しの下、子どもたちの笑顔と歓声がキラキラと輝く様を見るにつけ、子どもという存在の奔放さに、羨ましさを感じます。私たち大人のように夏の暑さに不平不満を言うことなく、淡々と日々を幸せそうに過ごす子どもたち。仏教では、「苦しみ」とは「避けること」の出来ない痛み（暑さ）に抵抗することで増大すると説かれています。つまり、苦しみ＝痛み（暑さ）×抵抗

という訳です。夏に暑いのは当たり前。そう割り切って、ただただ暑さを端的に受けとめて、受け流す。なんとも涼やかなありようではありませんか。

とはいえ暑いものは暑い……。そんな中にあっても、せめて風鈴や夏の虫の声など、この季節ならではの風物詩を味わえる心の豊かさは、大切にしたいものです。

生きる力・89号』送付

真言宗智山派発行、檀信徒の皆さまの為に情報誌「生きる力」を同封しました。今回の特集は『お盆を迎えて ～七回忌を迎えた被災地の現状とこれから～』です。記事を読むと、東北地方の復興は進んではい



るものの、まだまだ大変な状況にあることがよくわかります。最近でも九州北部豪雨がありました。甚大な被害を及ぼす自然災害が後を絶ちません。ご先祖をお迎えするお盆にあつて、今一度、大自然の中で活かされている私たち人間の存在について、想いを巡らす一時をご家族でお持ちいただければ幸いです。

施餓鬼会のご案内

恒例の施餓鬼会法要が左記の通り勤修いたします。ぜひご参加ください。本年も法要前の法話に代えて、「落語」の時間を企画いたしました。お話しただくのは昨年引き続き落語芸術協会所属で真打の落語家、立川談幸師匠です。「日本が誇る古典芸能の世界に息づく仏教の教え」を、落語を通じて出会っていただけたらと思います。どうぞご期待ください。



日程：平成29年8月12日（土）
時間：10時 諸報告
11時 施餓鬼法要
12時 お斎（とき）

※詳細は、同封の別紙をご覧ください。

海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

檀家総代 香坂守義さん 2人目

前回の宮島照彦さんに引き続き、日々寺と檀信徒皆さんのために、様々な調整役をしてくださっている檀家総代の香坂守義さんです。



真言宗智山派寺院巡礼

孫が二歳の時に難病にかかり障害が残ったものの九死に一生をえた。病氣回復を祈願していた海禅寺をはじめ寺院にお礼参りを済ませた後、当時長野県北部教区宗務所の事務を担当していたので所属の寺院の巡礼を始めることにした。

教区の寺院は当時一〇七あり、まず菩提寺として私の住んでいる長野から始めることとした。参拝の作法は俊勝住職に教えていただいた。

海禅寺

上田市中央北 平成二十二年一月二日参拝
石門から桜参道、六地藏拝、大門を入り水屋で清め、家内安全・祈平和の納札、鐘、賽銭、智山勤行式を唱え、御朱印をいただく。退きの礼、昔と変わらぬ大門が子供のころ境内で遊んだ風景を思い出させた。以下参拝の作法は参拝と記載。

正覚院

長野市安茂里 二二年一月一八日参拝
当寺の久保寺観音は参拝者が多い。
檀家数墓檀家を含め九〇〇軒。住職とは同

じ地域に住んでいる縁で、十一面観音菩薩立像堂を開けて頂きお参りをした。祖先の香坂宗継は大塔合戦後無常を感じ当寺の観音堂にこもり出家したと伝えられている。

霊山寺

長野市箱清水同 二二年一月二六日参拝
衰退した霊山寺を原田義伸師は四〇過ぎてから修行し托鉢一つで現在地に復興した。墓数約五〇〇。大峯山に入り岩井堂観音にお参りし謙信物見岩に登った。帰りに桜坂でおやきとだんごを食べた。

蓮台寺

長野市若穂綿内同 二二年一月一日
仁王門から南の山の本堂に至る五〇〇mの参道の周辺には約二五〇〇本のアジサイと桜が植えられている。宮澤住職は桜は赤い蕾で小さな花が多く咲くのが良い木で、小川村の陣屋の鈴木さんが桜守で桜の銘木で良い桜の森をつくっていると云う。後日何回か紅しだれ桜の花見に行った。

清水寺

長野市若穂保科同 二二年一月一日
本堂横から五〇〇mはあろう階段を上り空が開けると朱塗りの建物が目に飛び込んでくる。見事な千手観音堂である。保科の観音さんと呼ばれたまたボタンのお寺として親しまれている。参拝後保科温泉に行く。

以下寺院名と参拝日を記載

- 長福寺 長野市若穂保科 二二年二月一日
- 東明寺 長野市若穂川田 二二年二月一日
- 開善寺 長野市松代 二二年二月一四日

観龍寺	千曲市森	二二年二月一日
龍水寺	中野市三ツ和	二二年三月一日
南照寺	中野市中野	二二年三月一日
如法寺	中野市中野	二二年三月一日
菩提院	飯山市瑞穂	二二年三月六日

日頃は、生活に無我夢中だが、巡礼をしていると、時がゆっくりと流れ、しきりと昔のことを思い出し、家族をはじめ多くの人々にお世話になって、今日までできたことを実感し、感謝、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



月刊誌『地域寺院』送付

「大正大学 地域構想研究所」発行の月刊誌『地域寺院』さんより取材を受けました。本誌は寺院が行う地域活動の実践例などを紹介し、これからの社会に必要とされる寺院のあり方を探っていくことをテーマにしています。

今回は研究員の方より、海禅寺で毎年5月の第3日曜日に開催をしている聖天祭についてご注目いただき、掲載の運びとなりました。このお祭りを開くようになった経緯から、私、副住職の今に至るまでの歩みについても話題となり、巻頭の記事になっております。公開するのは少々気恥ずかしさもございますが、お檀家の皆さまに寺の取り組み等を知っていただけたらと1部ずつお送りいたします。ぜひご一読ください。



第6回 聖天祭 報告

去る5月21日、今年も大勢の方々にお力添えをいただき、6回目の聖天祭（しゅうてんまつり）を開催することができました。詳しい当日の様子は、前述の雑誌『地域寺院』をご覧いただければと思いますが、今年も大勢の方々にご参拝いただきました。

この聖天祭は、総代さん、そして各地域のお世話人方を中心に組織される実行委員会によって運営をされています。またお祭りの準備や片付け、当日のスタッフには、有志のお檀家さん、そして本行事に賛同し協力してくださる大勢の皆さまにご尽力をいただいています。こうしたお祭りを中心とした人の輪が年々広がってきていることは、寺として大変に嬉しいことです。ぜひ関心をお持ちのお檀家の皆さまにも、お気軽にこの輪にご参加いただければ幸いです。皆さんの菩提寺である海禅寺という存在が、仏事を司ることのみならず、皆さんの生活の様々な場面でよき風を届けられる存在であるよう、これからも努めて参ります。（次回は平成30年5月20日を予定）

聖天祭では、当日に限って販売をする特別な御守りが多数並びます。願いを込めて、毎年お求めになる参拝者の方も少なくありません。



副住職の気まぐれ法話

亡き人への手紙



海禅寺の住職を始め、寺族一同が勤務する芙蓉保育園では、今話題の棋士、藤井聡太四段が幼児期に受けていたというモンテッソーリ教育を独自の取り組みも加えながら模索の中で実践しています。そうした中で言語教育において卒園までに育つて欲しい姿が、「自分の気持ちを書き言葉（文字）で相手に伝えられるようになろう」ということです。園内では、ポストがあり年長児を中心に子ども同士、または子どもから職員へ、ハガキや手紙を送り合うお手紙ごっこが年間を通して行われています。

さて、ある卒園生のお母さんから聞き出したエピソードです。小学校4年生になったA君。自分をとてもかわいがってくれていた大好きなおばあさんが、闘病の末お亡くなりになりました。お通夜の席でお坊さんが読経の後、皆に話をしている際、突如A君は手をあげて「あの、ばあちゃんに手紙を書いてもいいですか？」と申し出たそうです。そして翌日の葬儀の際、おばあさんにこれまでしてもらって嬉しかったこと、楽しかった思い出、そして感謝の気持ち等書き連ねた手紙を、皆の前で読み上げたというのです。私は自主的にこうした行動に出たA君の、深い心の育ちに感激しました。

私たち大人は、学習期にある子どもに対して、テストの点数だとか成績、はたまた進学した学校の善し悪しといった目に見える成果で評価をしてしまいがちです。しかし人の価値というのは、こうして思わず亡き人に手紙を書きたくなるような、目に見えない思いやりの気持ちや優しさにこそあるのではないかと教わった思いがし

ました。目に見えぬ人の価値。私たち大人こそ、自他のそうした心を、しっかりと見つけて人生を重ねていきたいものです。



昨年から施行された国民の休日、『山の日』8月11日が採用された理由には、漢数字の「八」の下に「11」と書くこと山の麓に木が2本立っているように見えるとか、或いは山に向かって進む一本道に見える、など諸説あるそうですが、実はこれらの説は後からこじつけたものです。実際はお盆休みと連続させる利点があるとして、お盆前の8月12日を祝日とする案が一度は採用されたものの、同日はJAL123便事故と同日であることから、その前日にあてがわれたというのが実情で「8月11日」という日付そのものに意味は無いそうです。

とはいえ8月11日が祝日になるというのは海禅寺にとってこの上ない喜びなのであります。なぜかと言えば、翌日8月12日はご存じの通り海禅寺の施餓鬼会法要があり、お檀家さん各家のご先祖様の総供養する大切な日となっております。前述のように、平素は保育所で勤務をする私達にとつて、国民の祝日は保育園もお休みですから、安心して前日丸一日、皆さんを施餓鬼会にお招きする準備を整えることに使えるが故に、大変に有り難いことであるという訳です。

自然の摂理として、のびのび伸びる境内の雑草には頭を悩まされますが、できる限り万事整えて、お盆さんをお迎えしたいと思えます。合掌